

2021年11月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2021年10月14日

上場会社名 株式会社ネクスグループ 上場取引所 東
 コード番号 6634 URL <https://ncxxgroup.co.jp/>
 代表者 （役職名）代表取締役社長 （氏名）石原 直樹
 問合せ先責任者 （役職名）取締役管理本部本部長 （氏名）齊藤 洋介 TEL 03-5766-9870
 四半期報告書提出予定日 2021年10月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：無

（百万円未満切捨て）

1. 2021年11月期第3四半期の連結業績（2020年12月1日～2021年8月31日）

（1）連結経営成績（累計）（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％
2021年11月期第3四半期	3,336	△34.6	△506	—	△439	—	185	—
2020年11月期第3四半期	5,098	△29.3	△336	—	△394	—	△1,113	—

（注）包括利益 2021年11月期第3四半期 523百万円（－％） 2020年11月期第3四半期 △1,049百万円（－％）

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年11月期第3四半期	12.46	—
2020年11月期第3四半期	△74.74	—

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	％	円 銭
2021年11月期第3四半期	4,369	765	14.8	43.49
2020年11月期	4,780	825	2.2	7.10

（参考）自己資本 2021年11月期第3四半期 648百万円 2020年11月期 105百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年11月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2021年11月期	—	0.00	—		
2021年11月期（予想）				0.00	0.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2021年11月期の連結業績予想（2020年12月1日～2021年11月30日）

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う先行き不透明な現在の状況が、当社グループの事業活動や経営成績に影響を及ぼす可能性があるものの、その影響を現時点で適正かつ合理的に算定することが困難なことから、2021年11月期の連結業績予想につきましては、未定とさせていただきます。

今後、合理的な算定が可能となりました段階で改めて公表させていただきます。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2021年11月期 3 Q	15,030,195株	2020年11月期	15,030,195株
② 期末自己株式数	2021年11月期 3 Q	125,816株	2020年11月期	125,816株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2021年11月期 3 Q	14,904,379株	2020年11月期 3 Q	14,904,379株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料や記載した当期の業績予想につきましては、現時点での入手可能な情報に基づき、当社で判断したものであります。予想に内在する様々な不確定要因や今後の事業運営における内外の状況の変化等により、実際の業績と異なる場合があります。なお、業績予想に関する事項は、「添付資料」5ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	5
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	9
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(追加情報)	10
(セグメント情報等)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

文中の将来に関する事項は、当第3四半期連結累計期間の末日現在において判断したものであります。

（1）経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大の影響を受け消費環境の先行きは今後とも不透明な状態が続くと想定されます。

このような事業環境において、当社は3月に、株式会社ネクス（以下ネクス）の株式の49%を株式会社CAICA（以下CAICA）より取得し、完全子会社としました。2017年にネクスの株式の一部をCAICAに譲渡し、CAICAの持つブロックチェーンやセキュリティなどの最新技術と、ネクスのデバイス製品を融合させた新製品開発に取り組むことで、一定の成果を生み出しました。このたび、当社は戦略的注力領域であるIoT関連事業をさらに強化し、意思決定の迅速化、企業価値の向上を図ることを目的に、ネクスを完全子会社としました。

ネクスでは、USB型LTE/3Gデータ通信端末「UX302NC-R」に、在宅勤務などのテレワークに対応した2段階認証^{*1}によるセキュリティ機能を搭載した付加サービス「セキュアアクセスパッケージ」、さらに、文部科学省が教育改革案として推奨している学校のICT化「GIGAスクール構想」における「1人1台の学習者用PCと高速ネットワーク環境などを整備する5年間の計画」に標準仕様として提示されているGoogleのChrome OSを搭載したコンピュータ「Chromebook」に対応する機能の追加バージョンをリリースしております。

また、画像認識などのAI技術をエッジコンピュータ上で用いることでリアルタイムな処理が行え、セキュリティ、プライバシーにも配慮したエッジAI端末「AIX-01NX」の試作機をリリースしました。今後は本格的な販売に向けた試験導入を行ってまいります。



セキュアアクセスパッケージ



エッジAIコンピュータ「AIX-01NX」

※1 「2段階認証」とは、本人確認に2回の認証を必要とする、セキュリティ強化を目的とする仕組みです。

連結業績につきましては、IoT関連事業でネクスの提供する「UX302NC-R」が株式会社NTTドコモ（以下ドコモ）の相互接続性試験をクリアし、ドコモの取扱製品として同社製品サイトに掲載されるとともに全国のドコモショップ及びドコモオンラインショップにて販売されたことと、今般の新型コロナウイルス感染症対策として、在宅勤務などのテレワークの導入企業に幅広く展開されております。一方で、長引くコロナ禍による世界的な部品調達の大規模な遅れや先行きの不透明さからM2M分野における設備投資などの抑制の影響により、売上計画を下回る結果となりました。

インターネット旅行事業及びブランドリテールプラットフォーム事業では、4月からの3度目の緊急事態宣言に引き続き7月からの4度目の緊急事態宣言発出により、夏休み需要が大きく減少するなど、売上計画を大きく下回る結果となりました。

その結果、売上高においては、3,336百万円（対前期比34.6%減）となりました。それに伴い、営業損失は506百万円（前期は営業損失336百万円）、経常損失は439百万円（前期は経常損失394百万円）、税金等調整前四半期純利益は200百万円（前期は税金等調整前四半期純損失955百万円）、親会社株主に帰属する四半期純利益は185百万円（前期は親会社株主に帰属する四半期純損失1,113百万円）となりました。

当第3四半期連結累計期間におけるセグメントごとの業績は以下のとおりであります。

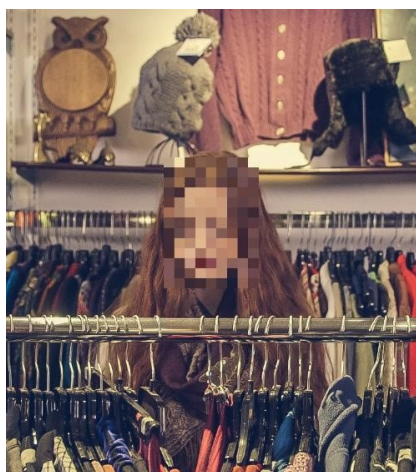
（IoT関連事業）

ネクスでは、2019年度米国国防権限法（NDAA2019）の成立により大幅に締め付けが強化された華為技術（Huawei）や中興通訊（ZTE）などの電子機器メーカー5社の機器やサービス、またそれを利用している企業の製品やサービスを米国政府機関が調達することを禁止する措置をとったことによる、当該製品からの切り替え需要は引き続き継続しております。また、当社製品は、働き方改革の推進、新型コロナウイルス感染症対策として、テレワークを導入する企業における在宅勤務などで使用するPC/タブレットからの企業ネットワークへの接続などで幅広く利用されております。加えて、電力設備、複合機、医療機器の遠隔監視や遠隔メンテナンス、食品・薬品などの温度管理、監視カメラによる遠隔監視など、IoT/M2M分野においても既存製品が幅広く活用されております。

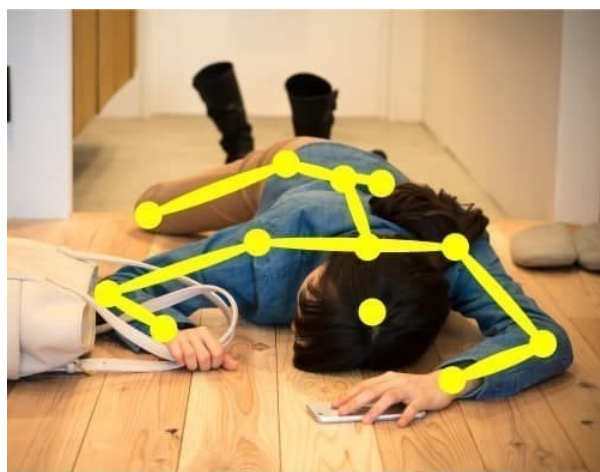
今後の動向につきましては、製造委託先の継続的な管理・監督とともに、信頼できる新規製造委託先の開拓を進め、国内メーカーとして市場のニーズに対応した製品群のさらなる拡充に取り組みます。国内外の市場に向けて今後普及が見込まれるLPWA^{*2}や第5世代移動通信システム「5G」、画像認識などのAI技術をエッジコンピュータ上で用いることでリアルタイムな処理が行え、セキュリティ、プライバシーにも配慮したエッジAIなど、モバイルコンピューティングや高付加価値通信デバイスとソフトウェアの融合により、培ってきた自動車テレマティクスソリューションをはじめとする様々な分野に対するIoT技術をベースにした「IoT×ブロックチェーン技術」、「IoT×AI技術」など、「IoT×新技術」を活用した新たなソリューションの提供を行ってまいります。

業績に関しましては、主力製品の「UX302NC-R」が、前期にテレワーク需要に備え多くの受注をいただいたうちの一部が流通在庫となっており、医療機関などのコロナ対策優先により導入の優先度が下がった案件が出るなどの影響が出ておりますが、下期後半には想定通りの受注が見込まれます。また、物流向けの受託開発案件につきましても追加での受注が決まるなど、下期に偏重する形で推移する予定です。

*2 「LPWA」とは、「Low Power Wide Area」の略で、「低消費電力で長距離の通信」ができる無線通信技術の総称。



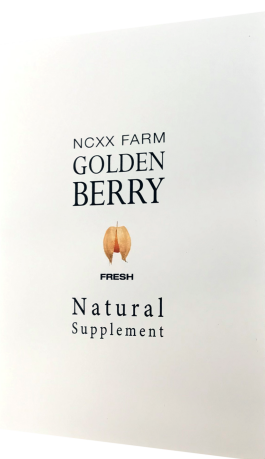
プライバシーに配慮した行動解析



画像認識による姿勢や転倒などの解析

農業ICT事業（NCXX FARM）では、農作物の生産、加工、販売を行う「6次産業化事業」と、特許農法による「化学的土壌マネジメント」+ICTシステムによる「デジタル管理」のパッケージ販売を行う「フランチャイズ事業」の事業化を推進しております。

「6次産業化事業」では、2018年より販売を開始したスーパーフードとして人気の高いGOLDEN BERRY（食用ほおずき）の販売を継続しており、岩手県内では花巻市、北上市内のファミリーマート全店で青果と加工品のGOLDEN BERRYアイスの取り扱いを行っております。また、贈答品用にGOLDEN BERRYの桐箱ギフトと、アイスギフトセットの販売をそれぞれ開始しております。



GOLDEN BERRY 桐箱ギフト

GOLDEN BERRY アイスギフトセット

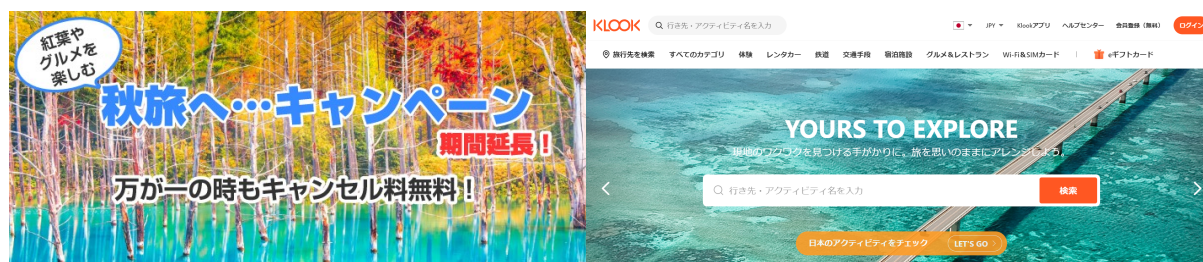
「フランチャイズ事業」では、自社試験圃場での栽培実績をもとに、自社独自の特許農法（多段式ポット）と ICTシステムの提供に加えて、お客様の要望に沿った多種多様な農法・システム・農業関連製品の提供を行う農業総合コンサルティングサービスを展開しております。2021年6月にはコロナ禍におけるイベント開催としてオンライン圃場見学会を実施しました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は326百万円（対前期比70.5%減）、営業損失は141百万円（前期は営業利益235百万円）となりました。

（インターネット旅行事業）

インターネット旅行事業のイー・旅ネット・ドット・コム株式会社（以下イー・旅ネット・ドット・コム）及びその子会社では、繁忙期である夏休みの旅行需要が2021年7月からの4度目の緊急事態宣言発出の影響を大きく受け、売上計画比33%という結果になりました。国内における2回目のワクチン接種率が50%を超え、海外渡航条件の緩和やワクチンパスポートの導入、旅行推進等のニュースなど、旅行需要の高まりにタイミングを逃さずタイムリーな対応ができるように準備を整えております。

イー・旅ネット・ドット・コムでは、海外旅行再開後に急増する個人旅行者向けに「自分で組み立てる旅」のコンテンツの充実を図ります。まずは、アジアNo. 1体験予約サイト「KLOOK（クルック）」と提携しました。国内外の現地ツアー・観光、レンタカーなど個人旅行に必要なアイテムが揃っております。また、ふるさと納税のポータルサイト「ふるさとプレミアム」と提携し、同サイトに出演している自治体で、当社の自治体向けの情報提供サービスにも登録している市町村の“イチ押し返礼品”を当社サイトで紹介します。ワクチン接種がさらに普及した際の旅行需要増加を見込んで、個人旅行者へのサービス拡充を行ってまいります。



株式会社ウェブトラベルでは、年度内の売上増加策として「秋の旅」の国内旅行の販売に注力し「秋旅キャンペーン」を展開いたします。今秋は連休がないため、旅行期間の短い旅行を重点的に販売します。コロナ禍でも安心してご利用いただけるように、「抗原検査キット」のプレゼントや「万が一新型コロナウイルスに罹患した場合のキャンセル料無料などの特別対応」などの特典を付けております。海外旅行においては、ワクチン接種率の増加に比例して年末年始やゴールデンウィークの家族旅行や海外ハネムーンの問い合わせが増えてきております。また同時に、「次に行きたい海外旅行」の最新情報配信サービスの登録者が増加しワクチンパスポートの情報等をHPやメルマガ、SNSで随時配信しております。

株式会社グロリアツアーズでは、東京2020パラリンピックが終わり、3年後の2024年フランス・パリ大会に向けての準備が始まりました。2021年12月にバーレーンで開催される「アジアユースパラ競技大会」への選手派遣等の大型受注や来年以降に世界各地で行われる「ワールドパラシリーズ」の各大会の受注に向けて営業活動を行っております。また、フランス語留学においては、大学単位での国内でのオンラインセミナー受講者が300名を超えました。あわせて、現地へ渡航する中期留学の申し込みも少しずつ増えてきております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は122百万円（対前期比79.5%減）、営業損失は132百万円（前期は営業損失99百万円）となりました。

（ブランドリテールプラットフォーム事業）

株式会社チチカカは、店舗事業においては2021年7月末時点で64店舗体制、またEC事業においては7店舗体制となっております。前期に引き続き、不採算店舗の閉店や人員体制の見直しなどによる構造改革を進めております。

当第3四半期連結累計期間において、店舗事業では、まん延防止等重点措置及び緊急事態宣言発出による影響を大きく受け、営業店舗でも客数が減少し、売上高は計画比94%という結果となりました。

オンライン事業では、当第3四半期連結累計期間において、売上計画比87%という非常に厳しい結果となりました。巣ごもり需要による前年度売上に対して、それを上回る施策や新たな商品が導入できなかったことが影響しております。これを受けてオンライン事業の基盤となるシステム見直しを2022年2月目途に行う予定です。システムを強化することでお客様のサイト利便性向上やこれまで実施できなかった施策を実現してまいります。

株式会社ファセッタズムでは、デザイナーの落合宏理がファミリーマートと共同開発した「コンビニエンスウェア（Convenience Wear）」を2021年3月にローンチいたしました。インナーやソックスなど68種類のアイテムを全国約16,700店舗のファミリーマートで販売開始しております。特にファミリーマートのソックスにつきましては、一部SNSなどで話題を呼び、店舗によっては完売となるなどの好評をいただいております。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は2,632百万円（対前期比22.1%減）、営業損失は308百万円（前期は営業損失193百万円）となりました。

（暗号資産・ブロックチェーン事業）

本事業では、暗号資産市場の動向と資金効率を踏まえた安定的な運用を行ってまいります。

今期は一部暗号資産の売却を行ったことで、営業利益を計上しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は249百万円（前期は売上高9百万円）、営業利益は247百万円（前期は営業損失3百万円）となりました。

（2）財政状態に関する説明

（資産）

資産の残高は、前連結会計年度末と比較して、411百万円減少し、4,369百万円となりました。

この主な要因は、投資有価証券が339百万円増加したものの、現金及び預金が504百万円減少し、受取手形及び売掛金が87百万円減少、商品及び製品が188百万円減少したことによりです。

（負債）

負債の残高は、前連結会計年度末と比較して351百万円減少し、3,603百万円となりました。

この主な要因は、借入金残高(※)が75百万円減少し、未払金が48百万円減少、未払消費税等が120百万円減少、資産除去債務が42百万円減少、店舗閉鎖損失引当金が38百万円減少したことによりです。

（純資産）

純資産の残高は、前連結会計年度末と比較して、60百万円減少し、765百万円となりました。

この主な要因は、利益剰余金が191百万円増加し、その他有価証券評価差額金が379百万円増加したものの、非支配株主持分が602百万円減少したことによりです。

（※）短期借入金、1年内返済予定の長期借入金、長期借入金残高の合計

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2021年1月18日の「2020年11月期 決算短信」から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年11月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,017,323	512,854
受取手形及び売掛金	456,107	368,840
商品及び製品	668,203	479,482
仕掛品	335,202	496,065
原材料及び貯蔵品	16,733	32,201
暗号資産	48,703	22,266
未収入金	87,156	67,933
前渡金	43,190	28,175
その他	98,985	112,934
貸倒引当金	△265	△265
流動資産合計	2,771,342	2,120,490
固定資産		
有形固定資産	378,995	347,994
無形固定資産		
ソフトウェア	14,921	15,376
のれん	75,482	52,346
その他	4,139	5,813
無形固定資産合計	94,543	73,536
投資その他の資産		
投資有価証券	1,037,864	1,377,323
長期未収入金	90,771	94,809
長期貸付金	76,080	72,880
差入保証金	435,053	375,355
その他	48,066	64,303
貸倒引当金	△151,852	△157,689
投資その他の資産合計	1,535,984	1,826,982
固定資産合計	2,009,522	2,248,514
資産合計	4,780,865	4,369,004

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年11月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年8月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	404,639	406,661
短期借入金	372,542	355,200
1年内償還予定の社債	200,000	200,000
1年内返済予定の長期借入金	326,647	298,969
未払金	301,782	252,974
未払費用	131,834	123,891
未払法人税等	80,466	47,059
未払消費税等	120,264	—
前受金	39,182	33,653
資産除去債務	90,972	10,559
賞与引当金	29,985	27,523
製品保証引当金	24,000	20,000
店舗閉鎖損失引当金	38,547	—
ポイント引当金	5,297	5,385
その他	21,998	18,178
流動負債合計	2,188,158	1,800,057
固定負債		
長期借入金	725,617	695,086
退職給付に係る負債	42,837	38,407
資産除去債務	208,619	246,815
繰延税金負債	766,986	793,173
その他	23,298	30,426
固定負債合計	1,767,359	1,803,910
負債合計	3,955,518	3,603,967
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,000	10,000
資本剰余金	2,769,964	2,755,331
利益剰余金	△2,221,593	△2,029,600
自己株式	△66,515	△66,515
株主資本合計	491,856	669,215
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△426,728	△47,171
繰延ヘッジ損益	△260	△588
為替換算調整勘定	40,948	26,707
その他の包括利益累計額合計	△386,040	△21,053
新株予約権	11,922	11,922
非支配株主持分	707,608	104,952
純資産合計	825,347	765,036
負債純資産合計	4,780,865	4,369,004

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年12月1日 至 2020年8月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年12月1日 至 2021年8月31日)
売上高	5,098,531	3,336,083
売上原価	2,663,967	1,571,043
売上総利益	2,434,563	1,765,040
販売費及び一般管理費	2,771,396	2,272,010
営業損失(△)	△336,832	△506,970
営業外収益		
受取利息	470	1,326
受取配当金	3,865	20,166
為替差益	14,444	23,347
暗号資産評価益	1,668	12,922
受取保険金	12,260	—
その他	19,598	29,680
営業外収益合計	52,307	87,443
営業外費用		
支払利息	19,412	18,649
店舗閉鎖損失引当金繰入額	72,607	—
その他	17,468	939
営業外費用合計	109,488	19,588
経常損失(△)	△394,013	△439,115
特別利益		
助成金収入	22,507	56,326
固定資産売却益	2,282	75
投資有価証券売却益	19,496	624,074
店舗閉鎖損失引当金戻入額	—	20,521
受取和解金	15,000	—
特別利益合計	59,286	700,998
特別損失		
固定資産除却損	1,940	0
投資有価証券評価損	205,000	—
投資有価証券売却損	120,097	—
関係会社株式売却損	146,712	—
減損損失	55,459	47,943
店舗休止損失	79,759	—
和解金	—	13,852
その他	11,792	—
特別損失合計	620,762	61,796
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△955,489	200,086
法人税、住民税及び事業税	85,611	44,848
法人税等調整額	6,849	△1,427
法人税等合計	92,460	43,420
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△1,047,949	156,665
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	65,999	△28,985
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△1,113,948	185,650

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年12月1日 至 2020年8月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年12月1日 至 2021年8月31日)
四半期純利益又は四半期純損失 (△)	△1,047,949	156,665
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△2,045	379,556
繰延ヘッジ損益	△4,125	567
為替換算調整勘定	4,451	△13,366
その他の包括利益合計	△1,719	366,757
四半期包括利益	△1,049,668	523,422
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△1,113,651	551,513
非支配株主に係る四半期包括利益	63,982	△28,090

（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（追加情報）

（連結納税制度からグループ通算制度への移行に係る税効果会計の適用に関する取扱いの適用）

当社及び一部の国内連結子会社は、「所得税法等の一部を改正する法律」（令和2年法律第8号）において創設されたグループ通算制度への移行及びグループ通算制度への移行にあわせて単体納税制度の見直しが行われた項目については、「連結納税制度からグループ通算制度への移行に係る税効果会計の適用に関する取扱い」（実務対応報告第39号 2020年3月31日）第3項の取扱いにより、「税効果会計に係る会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第28号 2018年2月16日）第44項の定めを適用せず、繰延税金資産及び繰延税金負債の額について、改正前の税法の規定に基づいております。

（新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響に関する会計上の見積り）

前連結会計年度の有価証券報告書の（追加情報）（新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響に関する会計上の見積り）に記載した会計上の見積りの仮定は、新型コロナウイルス感染症の再拡大の可能性や収束時期が見通せない状況が続いていることから変更しておりません。

なお、新型コロナウイルス感染症の拡大による影響は不確定要素が多く、当第3四半期連結会計期間以降の当社グループの財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローに影響を及ぼす可能性があります。

（財務制限条項）

当社連結子会社である株式会社チチカカが金融機関から借り入れている借入金の一部（165百万円）について、取引銀行3行とシンジケートローン契約を結んでおります。この契約には、下記の財務制限条項が付されております。

- ① 単体の貸借対照表における純資産の部の金額を、2019年4月中間期末日の純資産の金額以上に維持すること。
- ② 単体の損益計算書上の経常損益につき損失を計上しないこと。

当社連結子会社である株式会社チチカカは、当連結会計年度において上記条項に抵触しております。

しかしながら、借入先の金融機関より、期限の利益の喪失に係る権利行使を行わない旨の同意を得ております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自2019年12月1日至2020年8月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 千円)

	報告セグメント						調整額 (注)	四半期 連結財務諸表 計上額
	IoT関連事業	インターネット 旅行事業	ブランドリ テールプラ ットフォー ム事業	暗号資産・ ブロックチ ェーン事業	その他	計		
売上高								
外部顧客への売上高	1,108,255	597,673	3,377,224	9,836	5,541	5,098,531	—	5,098,531
セグメント間の内部売上高又は振替高	13,500	76	1,920	—	—	15,496	△15,496	—
計	1,121,755	597,749	3,379,144	9,836	5,541	5,114,028	△15,496	5,098,531
セグメント利益又は損失(△)	235,904	△99,434	△193,945	△3,015	3,033	△57,456	△279,376	△336,832

(注) セグメント利益又は損失は四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っており、調整額は主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

II 当第3四半期連結累計期間(自2020年12月1日至2021年8月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 千円)

	報告セグメント						調整額 (注)	四半期 連結財務諸表 計上額
	IoT関連事業	インターネット 旅行事業	ブランドリ テールプラ ットフォー ム事業	暗号資産・ ブロックチ ェーン事業	その他	計		
売上高								
外部顧客への売上高	326,742	122,310	2,632,331	249,021	5,677	3,336,083	—	3,336,083
セグメント間の内部売上高又は振替高	13,500	7	822	500	—	14,829	△14,829	—
計	340,242	122,317	2,633,154	249,521	5,677	3,350,913	△14,829	3,336,083
セグメント利益又は損失(△)	△141,985	△132,994	△308,328	247,417	△202	△336,093	△170,876	△506,970

(注) セグメント利益又は損失は四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っており、調整額は主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。